

飯舘村民からの提案・要望・意見等報告書

【掲載内容】

「飯舘村の未来を考えるためのデータブック」についての村民の感想等

「飯舘村の未来を考える会」にて発言された村民の提案・要望・意見等

平成 29 年 3 月 31 日

一般社団法人いたてネットワーク

一般社団法人 Bridge for Fukushima

飯舘村民からの提案・要望・意見等報告書 【目次】

「飯舘村の未来を考えるためのデータブック」についての村民の感想等

「飯舘村の未来を考える会」にて発言された村民の提案・要望・意見等

1. データブックの感想等	12の感想	・・・	1ページ
2. データブックへの追加データ要望等	12の要望	・・・	2ページ
3. 村民の声「自分・家族のこれから」	31の声	・・・	3ページ
4. 村民の声「飯舘村のこれから」	44の声	・・・	6ページ
5. 村民の声「飯舘村の農風景」	11の声	・・・	10ページ
6. 村民の声「飯舘村の農業」	38の声	・・・	11ページ
7. 村民の声「飯舘村の選挙」	4の声	・・・	15ページ

※データブック配布冊数 2000冊（役場、小中学校、飯舘校、仮設集会所等）

※飯舘村の未来を考える会 計6回開催（H28.11.24～H29.3.9） 村民34名出席

実施団体 一般社団法人いいたてネットワーク（福島県飯舘村）
一般社団法人Bridge for Fukushima（福島県福島市）

1. データブックの感想等

項目	No.	感想等
データブック 自体の感想	1-1	周りの声を聞いてなんとなく感じていたことが、こうやって数字やグラフを見ることによって、具体的に確認できた。
	1-2	手にとって、じっくり読むことができることは、何か安心感につながる。本として飯舘村の情報を読めることはうれしい。
	1-3	日常に紛れて将来のことを考えていなかったなので、良い機会になった。
	1-4	新人職員にとって飯舘村を知ることができる良い資料だと思う。職員にぜひ読んでみて！と勧めた。
	1-5	このような本があると助かる。近くに避難している村民の方に持って行って貸してあげた。
データブック のグラフを 見ての感想	1-6	飯舘村の牛農家は、震災前こんなにいたんだな。牛農家は減っているのに、子牛が多くなっている。
	1-7	人口の予測を見ると、これまでの文化や伝統がこれからどうなるのか心配。
	1-8	データを見て読み解くのが初めてなので新鮮だった。何らかの方向性を見だし、政策に繋がるようにしなければならない。
データブック への要望	1-9	非常に貴重なデータブックを作成してくださった事に感謝します。民間で、自主的に作るということまでは考え及ばなかったことです。本当にご苦労さまでした。欲を言うなら、今後の更新・継続をお願いしたいです。
	1-10	全戸にデータブックを配布してほしい。
	1-11	高齢者にとっては情報をとるのが大変。データブックを可能な限り続けてほしい。
	1-12	良い情報を発信し続けてほしい。

2. データブックへの追加データ要望等

項目	No.	追加データ要望等
農業データ	2-1	カスミソウで再開したいという意向がある。投資額と売り上げ、利益等が予測できる情報が欲しい。
	2-2	子牛の販売額（イコール、母牛の導入額）のデータがあるとこれからのことを検討しやすい。
	2-3	飯舘村に戻るのは2～3割。そのうち農業をするのはどれくらいだろうか？これだけの土地（2,000ha以上）を維持していくためにはどうするべきなのかをデータで考えてほしい。そもそも2,000ha以上を手入れ、維持するためにはどれだけの労力があるのか、それを算出してほしい。
復興データ	2-4	汚染土等の仮置き場の数、フレコンバックの数の推移や現状もわかると良い。
	2-5	復興の指数が土地利用の状況なのかもしれない。
	2-6	必要な景観、それを維持するためにはどれだけのコストがかかるのか、出してほしい。
	2-7	避難指示解除 1年後（平成30年3月）、飯舘村がどう変わったのか？それを見せて欲しい。村に戻りたい方、戻るかどうか迷っている方にとって、とても重要なデータになると思う。
	2-8	買い物、コミュニティ、様々な生活情報が数字で見ることができる、経過がわかると良いと思う。
	2-9	村内外の就労状況。現在、どのような職種・職場で飯舘村の方が働いているのか。また、就労実態も知りたい。そして、5～10年後、飯舘村にどのような職場・職種を期待しているのかも知りたい。その情報をもとに、企業誘致、土地利用などを考えれば、飯舘村の方が戻ってくる割合も高くなる。
行財政等データ	2-10	村の財政が今どうなのか、これからどうなるかの情報も欲しい。
	2-11	出生者数と死亡者数の推移があれば、これからの人口の推移がもう少しイメージしやすい。
	2-12	村民の健康状態のデータ化。

3. 村民の声「自分・家族のこれから」 3の1

項目	No.	自分・家族のこれから
悩み・不安	3-1	戻る、戻らないは家族を壊す可能性があるのも、難しい。国が何ミリまで大丈夫という基準があるけど、それだけでは判断できない。こうだから、収入大丈夫だから戻って来いと、それだけで決めることができない。許容できる人もできない人も村民である。そこで合意すると後々よくない。
	3-2	女の方は子どもや旦那の判断で帰村を判断する。子どもを思えば帰れない、事業を考えると帰らなくてはならないなどの状況がある。
	3-3	死ぬときは飯舘。墓は飯舘にあるので。福島に持ち家があっても、よく眠れない。そんな感じているのは嫌だ。
	3-4	家族でも飯舘のことや今後のことの話はあまりしていない。
	3-5	借り上げアパートなので、いつまでいられるかが不安。
	3-6	あと10年以上たって歳をとってから飯舘の生活に戻れるのか。雪かきや草刈りなど。これまでは夫と義父が中心にやっていた。不安である。
	3-7	家族が分断された。
	3-8	世代間の交流が減った。
	3-9	自分所有の土地（農地）がほしい。福島でもよい。
	3-10	キノコや山菜をとることを禁止されると、高齢者は何をしてもよいのかわからない。今は仮設の集会所で体操などしているが、帰ったら近所と遠くなる

3. 村民の声「自分・家族のこれから」 3の2

項目	No.	自分・家族のこれから
戻る ・ 戻らない の判断	3-11	帰還後しばらくは子供も小さいので、福島に住んで通うことになりそう。
	3-12	子供が福島の学校にいるので、これからは未定。
	3-13	人口については自然現象じゃない減り方が問題。家族でも毎年どうするか話すが、孫は高校までは避難先だが、その後は聞けない。
	3-14	孫や子供に戻れとは強制できない。
	3-15	安心や安全の前提ができるまで帰って来いとは言えない。村が自己責任で帰れと言っているのと同じ。
	3-16	小学生の頃の孫は、自分の跡をついで農業したいと言っていたが、原発で途切れてしまった。家族のこの先すらわからない。
	3-17	子供世代は、孫の学校や放射能の問題で、帰りたくないだろう。
	3-18	放射能があるうちに子供や孫に帰って来いとは言えない。自分が死んだ後に子供が帰ってくるかわからないのが寂しい。次男は村内の会社に勤めているので継ぐかとは言っている。
	3-19	帰ろうかと言っている息子もいるが、フレコンバックがあれだけある状態で帰らせられるか。慣れが怖い。
	3-20	やっぱり、放射性物質は不安。キノコも食べれない。いくら戻ってもいいよと言われても、無理なものは無理。不安で今の飯舘村には住めない。
	3-21	将来、飯舘に戻れるかはわからないので、今のところは村での生活のことは考えていない。お墓は守らないと・・・と思う。
	3-22	個人的には飯舘の風景を守るためにも二拠点居住にするつもり。
	3-23	仮設住宅がある間は、仮設に住んでいたい。可能であれば、みんなとずっと住んでいたい。
3-24	育児が終わったら飯舘に住みたいと夫とは話している。	
3-25	飯舘に戻ると、買い物や病院が原町になり遠くなる。	

3. 村民の声「自分・家族のこれから」 3の3

項目	No.	自分・家族のこれから
生計について	3-26	5年間農家でない生活を経験して、周りの仲間と比較すると、いずれお金が無くなる、そのために何とか仕事をしている。そうした状況が嫌である。帰る前の「生計を立てる」という、現実がものすごく大事。
飯舘村の家屋・土地について	3-27	飯舘の自宅、傷んでいくから壊したほうがいいのではないかと旦那がいう。子どももいいんじゃないかという。自分は戻る場所がなくなると帰れなくなると思う。飯舘の家を壊していいのか悩んでいる。
	3-28	飯舘村の土地を荒れさせたくない。
	3-29	先祖からの土地を守りたいと思う。
住民票等について	3-30	いつまで学校の区域外通学ができるのか不安。家族で住民票を移すかという話になった。10年以上帰らないし、家も福島に買った。移した人から聞いても、特に変わらなかったと聞いている。住民票を移して、「避難者」という状況を終わらせたいという気持ちもある。
	3-31	子供の住民票を移す場合、母子だけ変えようとしている。

4. 村民の声「飯舘村のこれから」 4の1

項目	No.	飯舘村のこれから
飯舘村の 将来への 希望	4-1	それぞれの判断を尊重するしかないし、その空気を作らなければならない。
	4-2	元には戻らない。現状を理解して、新しい発想を持つ人が大事。
	4-3	去る者追わずで、出て行ったものは仕方がない。全国から農地等を引き継いでもらったほうが良い。外部から来られるような村づくりを考えていきたい。
	4-4	飯舘に就職先から戻ってきて良い村だと思った。今、また村の良さを再確認できるタイミングだと思った。
	4-5	問題は大変だが、自分でできることをしていくしかない。組の集まりで話しをするが、それぞれ思いを持っている。まだ捨てたものではないのでなるようになるはず。
飯舘村の 将来への 不安	4-6	これからの村の財政が予測つかない。支出と収入のバランスが取れるのか。国や県からの予算が震災後に増えているが、今後どうなるのか。
	4-7	農業や小売りが村内で難しいので、歳入が増える見込みがあるのか。
	4-8	深谷の道の駅などの施設をどう運営するのかわかならない。村が予算を出しているが、どうなっていくのか聞いていない。維持管理費等もかかるが、村の予算が使われるのか。
	4-9	除染はしたが、今後土地の管理や維持はできるのか。人が住んでいないところに今後予算はつくのか。
	4-10	遊休農地ができるのは、一部でも荒れたところができるということ。
	4-11	除染が終わって本来の村に近づいたのに、人がいない。農地はこれからどうなっていくのか、気になるところ。仮置き場の話や、除染がある程度で止まるので、気になる情報。
	4-12	工業は働く人がいないのが大変。
	4-13	介護業者がいないことも課題。薬局がないのも問題なので、診療所の利用者も月5人くらいと聞いている。
	4-14	婦人会も少なくなってきた、部落ごとでの維持は難しい。
	4-15	部落で婦人会は解散した。老人会は残っているが、活動は停滞中。

4. 村民の声「飯舘村のこれから」 4の2

項目	No.	飯舘村のこれから
飯舘村等 への提案	4-16	福祉（メガ老人ホーム等）・再生・更生（更生施設等）の土地にでもしたらといっている。よそで受け入れられないものを受け入れる場所でよいのではないか？
	4-17	仮説（シミュレーション）からすると人口が減る、限界集落化は避けられない。ならば、行ってみたいと思う村づくりがあってもよい。飯舘村の景観をさらに充実させてほしい。行くと落ち着く、ほっとする。村外の方も来てもらえるような村に。
	4-18	今のお年寄り元気なので、戻ってきた人が生き生きして暮らせるような村づくりを考えてほしい。
	4-19	組のつき合いを残さないと、地域が荒れていく。
	4-20	デイサービスなどを利用している人が仮設には多いが、飯舘村に帰ると利用できないので帰れない人がいる。婦人会等の会の役割が増える。高齢者を買い物に連れて行くなど、もともとやっていた。
	4-21	村から婦人会に補助を出して、以前のような会を復活させては？
	4-22	女性だけでなく、皆でやっていかないと。
	4-23	閉校する小学校を特養やグループホームとして使っても良いのでは。
	4-24	独りで飯舘に戻るが、病気になった時など心配なので、定期的な見回りは欲しい。
	4-25	村に見守りを頼むだけではなく、地域で担わないといけないだろう。
4-26	震災前から、人も減っていたので村の田園風景などを守るのが難しかった。これから先にどこまでできるのかは不安がある。何か別な方法や政策が必要。村は開墾の歴史なので、維持できないなら山に返しても良いのでは。返し方も重要。民間の力で何かできないか。木を植える運動など。	

4. 村民の声「飯舘村のこれから」 4の3

項目	No.	飯舘村のこれから
飯舘村等への要望	4-27	グループホームなどをいくつか作ってほしい。村としても安否確認しやすくなるだろう。
	4-28	解除後の飯舘を写真や動画で発信してほしい。
	4-29	定期的にグランドゴルフをする等、定期的な集まりが欲しい。
	4-30	飯舘村議会の議事録をなるべく早く公開してほしい。
	4-31	避難先に住民票を移動してはいけいなのではないでしょうか？移動すると何か不都合があるのでしょうか？何がかわるのか教えてください。
飯舘村等への意見	4-32	避難している人に親身な相談を行政はしてきてない。避難が解除された後の賠償に批判は高まるだろう。だが、フレコンバックも残っているのて、復興準備としてこれまでのような支援が必要。3月31日解除なのに、まだビジョンが示されていないのは遅い。
	4-33	村議は代表の役割をはたしていない。区長など、顔の見える人を代表にしないと。仮設の集会所に定期的に来るなど、声を拾ってほしい。
	4-34	村民の考えと、村議の考えがずれている。
	4-35	若い人が村外に行ったのに、箱モノがあっても仕方ない。
	4-36	運転できない人にとって、住みにくい復興住宅には入らない。
	4-37	放射性物質測定の結果食べてダメと言っているものを、少しなら食べてもいいような発言をする講師先生がいる。ダメなものは、ダメとしないと何のための検査かわからない。
	4-38	子育てしやすいので飯舘に移住を呼びかけていたのが、飯舘に元からいた人を切ったように感じた。今は戻らないと決めた人が、将来戻ってくるようになってほしい。どこかに行っても、いずれ戻ってきててもよいというような優しさが村にはない。子供たちにとって、飯舘って良かったと思ってもらえないと思う。
	4-39	いろいろな考えがあるのに、村が認めてくれないという印象がある。この悪い印象がいつになったら良くなるんだろう。

4. 村民の声「飯舘村のこれから」 4の4

項目	No.	飯舘村のこれから
飯舘村への 思い	4-40	この地域がどうなって行くのか、毎日考えている。
	4-41	集会をして、120数戸あって戻るのは26,27戸程度になりそうだったが、ほとんどが高齢者夫婦のみ。子供に負担をかけないために、建物を壊したという話を聞くと寂しさを感じる。
	4-42	自分も歳を取るので、お互い様を考えないと。
	4-43	飯舘は好き。みんなが帰りたいと思ってほしい。
	4-44	現実として、飯舘に住んだことがないのでイメージがつかない。

5. 村民の声「飯舘村の農風景」

項目	No.	飯舘村の農風景
飯舘村の 農風景	5-1	農地保全をしなければ、飯舘村は残らない。
	5-2	田んぼは季節ごとの風景があり、それが村の美しさ。手入れされている美しさ。
	5-3	農地がきれいに作られていないと美しい村ではない。山は自然の成り行きでもよいが。
	5-4	美しい風景は人の手が入っていたからだと感じた。30-40年後を考えなければならない。
	5-5	農地に戻せないところは、もともと開墾した地なのだから、山に返す。返す時も将来の良い景観を目指して植樹する等考えてもらえればよいと思う。
	5-6	自然生態系が崩壊したことが最も悲しい。自然の恵みの価値を受けて、苦しくても生きてきた。そういう村なんだということが思い出される。それが壊されてしまった。それは戻らないだろう。自分たちのいる世代に戻すことは難しいだろう。作物を作れなくても農地保全しながら残す。農地として使わないところは付加価値をつけて山に戻す。
	5-7	太陽光は、今までの飯舘のイメージから考えると反対。無機質なものなので、お金に換えられないものもあるはず。
	5-8	村の一等地に道の駅やソーラーをたてるだけでは仕方ない。村民的には最悪。
	5-9	相続や贈与で30-40代所有の農地が生まれてくると思うが、農業未経験者なので、いままで同様の景観維持は難しい。その世代にとって、飯舘村の農地がいつの日か負担になる日が来ると思う。農地の村有化、国有化を進めるしか景観は守れない。どうにもならない土地が大量に生まれるような危機感がある。
飯舘村の 環境	5-10	蕨平の焼却施設からの煙が気になる。
	5-11	家に帰って深呼吸して落ち着ける環境だと良い。

6. 村民の声「飯舘村の農業」 4の1

項目	No.	飯舘村の農業
仲 間	6-1	仲間がいないとどうにもならない。特にお米。上流から水路を構成していて、共同設備。一人ではコスト負担が大きすぎる。自分の行政区ではとても無理。牛も土手草、わら、それら稲作の副産物を利用できるから成り立つ。
	6-2	農業が再開できる条件は、「仲間」かな。農業を行う、仲間5～6人もいれば、手入れもできる。何年かかるかわからないが、東京あたりに行った親類が継ぐかもしれない。
これからの 村の農業 2の1	6-3	他の人がいないので、その分大規模農業をすればチャンスかも。
	6-4	農地のうち、現在どう使われているかが重要。遊休地や仮置き場になっているなど。遊休農地がこれからどれくらい作付けされるのかが重要。家族経営じゃない農業の道の模索ができるのでは。補助金漬けではなく、リスクは背負って農業を事業にする気概が必要。
	6-5	花、野菜の持ちがいいなどの飯舘ならではの特性がある（特に夏の夜温の違いによる影響がある）。和牛でも、飯舘は受精卵の他地域導入などを進めて、花と和牛で食べられるような状況になっていたと思う。夏は花卉、冬の牛。
	6-6	飯舘村と福島市や他の土地、作付けの時期をずらせるから、生産期間を長くできる。連携、つながりを持つことで展開が可能ではないか。
	6-7	飯舘村の振興目的で、ワイン用ブドウの開発を始めている。ワインを子どもは飲まないから。
	6-8	米なら酒米にすれば良い。セシウム等の数値はでない。
	6-9	色々と生産を試してみたが、最も低いのが根菜類。吸着しにくい。そして、加工していくしかないのではないかと。産業化できれば良い。
	6-10	農業が再開できる条件は、時間かな。風評的な被害がなくなるまでの。
	6-11	被災地域の稲作をすべてやめても、国のコメは余る。米作りができるように戻すというよりも客土して畑にして、新たな作物などを考えた方が良い。

6. 村民の声「飯舘村の農業」 4の2

項目	No.	飯舘村の農業
これからの 村の農業 2の2	6-12	農業支援を村にやってもらいたい。魅力があれば若い人も戻ってくることもあるのではないかな。
	6-13	飯舘の農業について、実践者にもっと相談してほしい。
	6-14	村の方針を待っても仕方ないので、集落ごとに何をやるのかを考えて始めなければならない。土地を荒廃させないためにも、土地利用型の蕎麦を作る方向で考えている。できる範囲で農地を守らないと。せめて自分の地域だけでもなんとかしたい。そうすれば、周りの地域も変わるのではないかな。
	6-15	寝る前などは、あと10年だと感じる。のんびり過ごすだけでも良いが、開墾してきた土地を考えて農業再開を目指します。
農業者減少 への不安	6-16	米作りは、灌漑設備等も含めて管理しなければならないので、人数が減ると成り立たない。手入れをしていないと水の流れも変わっている。
	6-17	震災の時に転職できる歳ではなかった。だから農業を始めたが、若い人はそうならないのではないかな。
	6-18	若い世代の中には、震災をきっかけに、農業を継がなくてよいと考えている人がいる。
	6-19	飯舘村の農業そのものにもともと限界があったと認識している。日本全体にいえるが、原発とは無関係に後継者不足の問題をどこでも抱えている。
	6-20	飯舘が工業で発展するというのは考えにくい。村、農協が中心になって花にしてもなんにしても、腕がある人でないと目が出てこない。村が主導しても若い人は入ってこないだろう。
	6-21	帰る人がせいぜい50,60代で、それでも若い方になる。土地を荒らせないという意思で戻る人が多い。
	6-22	若い世代で専業農家はほとんどいないから、戻って農業をやる人はいないだろう。
	6-23	第二種兼業農家の比率が圧倒的に多い。若い人だけになると、田んぼを頼んでしまい米だけをもらうということもある。荒らしたくないから。今後問題になるだろう。

6. 村民の声「飯舘村の農業」 4の3

項目	No.	飯舘村の農業
農業経営 への不安	6-24	カスミソウで再開したいという意向がある。行政区で話をまとめないと進められない。自分たちで進めるためには、投資額と売り上げ、利益等が予測できる情報が必要。一株当たりいくらになり、市場からのニーズがあれば。子どもを育てている立場では、生計が成り立たないと踏み込むことはできない。若い人は舵を切ることができない。
	6-25	農家で収入を得るためには、規模を大きくするしかない。米でも難しい。
	6-26	施設をしっかりと立てようとする1～2億円の費用がかかる。補助金、助成金が個人で落ちにくい。法人だと、雇用創出が伴わないと厳しい。帰村して事業するのは、投資というリスクが大きい。
	6-27	専業の畜産農家は少ない。リスク、為替変動の影響がある。何かの副産物を利用するという考え方から牛を活用するという考え方が強かった。投資金額を回収するまでが大変。母牛は8～10年、牛舎は20年先の投資になる。「これあるからやろうか」という動機で、新規で畜産をこれからやろうというのはなかなか難しい。
	6-28	子供の頃や会社等に勤めてもかなり農業の手伝いはしてきた。40歳くらいはそのような人が減ったので、農地などへの問題意識が薄れたのではないかと感じる。農業をやってきた人は、荒れた農地を見たときに感じると思う。
	6-29	飯舘村では、生産者によって、売価もかなりかなり変わる。名前によって単価が変わる。いいもの出した分だけ良い収入がある。そうした切磋琢磨が、他地域よりも良いものが生まれた。それがなくなった。個人でやっているとそうした競争が生まれにくい。個人の活動になっている。
	6-30	今の補助事業は持続性がない単発。
	6-31	関東などで、福島のものを買わないと言われると、百姓をやる気もそがれる。自分が食べるなら良いが、販売して生計を立てるのは難しいので、どうして良いのかわからない。村が主導して何を作るのかを出してほしい。
	6-32	子供が定年まであと15年、それまで土地を守ることはできない。やる気はあってもできないという家が多くなるのではないかと。

6. 村民の声「飯舘村の農業」 4の4

項目	No.	飯舘村の農業
今までの 村の農業	6-33	以前は、高齢者は農業、若い人は務めるという兼業。子どもが小さいから遊びに行きたかったが、農業があつて出かけられなかった。
	6-34	今の時代農業で来ている人は、親の代で先行投資をしている人。
	6-35	堅実に事業を進めるために、ちょっと牛を飼っておこう。みたいな感じで買う人もいる。まさに蓄産。堆肥つくる、稲わらを作ってくれる。寒いところではそういうところがある。
	6-36	飯舘村の時は、生産者どうしの競争もあった。飲むときは仲良くするが、生産ではライバル。
	6-37	飯舘村では、販路が選べていたのでやりがいはものすごくあった。いまはJAのみの出荷。モチベーションは上がりにくい。
	6-38	飯舘村の農業のレベルは高いと思う。自然災害と戦ってきたという歴史がある。

7. 村民の声「飯舘村の選挙」

項目	No.	飯舘村の選挙
投票率低下 への不安	7-1	若い人はどっちでも良いと思っている人が多い。自分は帰らないということで。
	7-2	若い人の投票率は興味が薄れているのか。
	7-3	住んでいないのでやっぱりそうなる。選挙活動は、仮設や住宅の集まっているところでしかできない。
	7-4	情報を取りに行かないと得られなかった。親世代から投票行けよって昔は言われていたが、世帯分離したのでそれが減ってきた。